

「パニッククォーマーシャル」

中村 允俊

登場人物

新倉 泰斗	(34)	電報道	クリエイティブ・ディレクター
宮地 守	(33)	電報道 営業部	太陽ビール担当
藤木 優介	(31)	太陽ビール	宣伝部 ビアライト担当
石瓦 剛志	(49)	太陽ビール	宣伝部 宣伝部長
リンカ	(25)	元アイドルの清楚系女優	
庄司 智子	(51)	リンカのマネージャー	
雨宮 晃	(38)	CM監督	
屋内 誠	(36)	制作会社HANDS	CMプロデューサー

○CM・ビアライト

竹林で、風にゆられるリンカ（25）。
手を掲げると、手のひらに風が集まり、
ビール缶の形に。

リンカ「（微笑）」

風のビールを飲むリンカ。

ぴゅうっと、そよ風が吹き抜ける。

男性N「風になりたい、ときがある」

草原に佇むビール・ビアライト。

男性N「カロリーゼロの、ビアライト」

新倉M「そんなCMになるはずだった」

○撮影スタジオ・入口

バコーン！と扉が開く。

「！？」と振返る新倉泰斗（34）。

スーツ姿の石瓦剛志（49）登場。

石瓦「……」

新倉「（啞然）」

新倉M「このカタブツがくるまでは」

○タイトルバック・『パニックコマーションシャル』

○撮影スタジオ・入口

T 「撮影1時間前」

新倉が入ってくる。

「お疲れ様です」とスタッフたち。

新倉、会釈して進む。

新倉M 「たった15秒のCM。その裏には、何十人も大人がいて。それぞれの想いで、ここにいる」

○同・撮影セット前

竹林のある撮影舞台。3台のカメラ・

十数台のライトが囲んでいる。

新倉来て。

新倉M 「たとえば」

そそくさと駆け回る雨宮晃（38）。

雨宮 「照明さん照明さん、人物あての明かり、もちつと柔らかくー」（新倉が目に入り）
新倉さくらん！」

新倉「いい感じですか？」

雨宮「賞とれますよこれ」

新倉「（照笑）」

雨宮「あーライト強い！ 違う違う！」

新倉M「この人、雨宮晃は」

○CM・雨宮晃

ロケ地の公園で、名刺交換する雨宮。

新倉N「見た目はオトナ！」

砂場でこどもと喧嘩する雨宮。

新倉N「ココロはこども！」

砂山の構図を、砂まみれになりながら

模索する雨宮。

新倉N「こだわり داشتたら、とまらない！

CM監督 雨宮晃」

○撮影スタジオ・撮影セット前

雨宮、カメラを覗いて、ぶつぶつ。

新倉「（微笑）」

屋内「新倉さん、お疲れ様です！」

振返ると、笑顔の屋内誠（36）

新倉M「彼はプロデューサー。撮影の予算、スケジュールをすべて管理している」

○CM・屋内誠

オフィス。見積を突き出される屋内。

屋内「……大丈夫っすよー！」

新倉N「といつも笑顔！」

スタジオ裏。スタッフに詰め寄る屋内。

屋内「（笑顔で）機材費、下げれますよね？」

新倉N「すべては無事撮影を進行するために」

屋内「みんな待ってるから。ね？ ね？」

新倉N「プロデューサー 屋内誠」

屋内「お願いしまーっす！」

○撮影スタジオ・撮影セット前

屋内、スタッフ陣を見て。

屋内「ここまで長かったっすねえ」

新倉「企画プレゼン10回はやりましたから」

屋内「噂には聞いてましたけど、やっぱり太陽

ビールさんはモンスタークライアントすね」

新倉「（苦笑）」

新倉M「監督にプロデューサー、カメラマンに照明、たくさんのスタッフでCMは成り立っている。けど」

藤木優介（31）が宮地守（33）に

案内されて入ってくる。

新倉M「何より忘れちゃいけないのは、そう、クライアントだ」

新倉、笑顔で頭を下げる。

藤木、「あ」と礼する。

○同・クライアント待機スペース

試写モニターと菓子・飲物のある机。

新倉、藤木の向いに座って。

新倉「いよいよですね」

藤木「うちの会社でこんなおしゃれなCMが作れるなんて。新倉さんのおかげです」

新倉「何言ってるんですか。藤木さんが社内通し
てくれたらでしょ」

藤木「いやいやいや。でもホントうちの会社、
すぐ「うまい！」ニコッ！ カメラ目線！
にしちやいますからね。恥ずかしい……」
新倉M「体育会で頭の固い太陽ビールのなか
で彼は」

○CM・藤木優介

皆がビールで乾杯するのにあわせて、
ジョッキを掲げる藤木。

新倉N「ビールよりも」

アロマだけのほのかな灯りの自宅。
白黒映画を見ながらワインを飲む藤木。

新倉N「ワインが好き」

手製アヒージョにバケットをつけて、
新倉N「おしゃれに、生きていく。太陽ビ
ル宣伝部 藤木優介」

○撮影スタジオ・クライアント待機スペース
絵コンテを眺める藤木。

藤木「このあえて商品もたないところがいいん

ですよね」

宮地「それもひとえに、藤木さんが社内を通してくれたおかげですよ」

新倉「下手くそか（叩く）」

宮地「イテテッ」

藤木「（笑い）上が異動の時期で、そのスキにこっそり通しただけですから」

新倉「ちなみに今日……あの宣伝部長は」

藤木「来ませんよ」

新倉・宮地「（ホッ）」

宮地「さすが藤木さんですー」

新倉「だから下手か（叩く）」

痛がりながら笑う宮地。

新倉M「こいつはうちの営業。返事のよさだけで、今回の仕事をとってきてくれた」

○CM・宮地守

野球場でノックをうける宮地。

監督「拾えーッ」

宮地「はい！」

オフィスで顧客から書類渡され、

顧客「明日までで」

宮地「はい！」

会議室で、書類を突き返される宮地。

新倉「明日までは無理」

宮地「はい！」

新倉N「そんな営業 宮地守！」

宮地「はい！」

○撮影スタジオ・クライアント待機スペース

「リンカさん入られます」

新倉、藤木、宮地が振り返ると、

白いワンピース姿のリンカ（25）と、

赤いジャケットの庄司智子（51）。

リンカ「（笑み）」

○CM・リンカ

アイドル姿で歌うリンカ。

オタク達「かわいい〜！」

リンカ「だけじゃない！」

庄司、マイクを奪って、

庄司「これからは大人路線まっしぐら！」

リンカ「女優リンカ！」

庄司「マネージャー庄司もね！」

○撮影スタジオ・クライアント待機スペース

リンカの衣装を見つめる一同。

屋内「衣装チェックお願いしまーす！」

新倉「いいですねえ（藤木に）どうすか？」

藤木「は、はい。かかか、かわいらしいです」

庄司「かわいい？」

宮地「はい！」

庄司「……」

新倉「あー！いつものかわいさに加え、大

人の魅力も出ててすごいいいです」

リンカ「へへ、よかったー」

屋内「衣装おっけーです！」

屋内、リンカを楽屋へ案内。

どかっと席に座る藤木・宮地。

藤木「はー緊張したー」

新倉、藤木見て微笑み、

改めて一同を眺める。

新倉M「皆想いはそれだけけど、これから

全てひとつになる。いいものができる時は、

こんな風に皆がいい顔をしてる時だ」

屋内「いい作品になりそうすね」

新倉「はい」

屋内「聞きましたよ。人事異動の話」

新倉「えっ」

屋内「ここで賞とって絶対クリエイティブ局

残ってくださいよ」

屋内、新倉の背中を叩き、去る。

新倉「……」

○CM・新倉泰斗

電報道オフィス。

部長「お前も営業行きかなー？」

新倉「そんな、僕は企画したくてこの会社に」

部長「ひとつの見方しかできない奴に、良い

広告は作れない」

新倉「……！」

部長「残りしたいなら、いい加減賞とつてよ」

新倉「とります…次のCMでとりますから」

新倉N「無冠のクリエイティブディレクター」

…新倉、泰斗」

○撮影スタジオ・撮影セット前

新倉、両頬をパパンと叩いて。

新倉「よし、気合いれてきましょー！」

一同「うえい！」

扉が開く音。

新倉、？と振り返る。

コツコツと黒の革靴が姿を現す。

新倉「……！」

入口前に仁王立つ、石瓦剛志（49）。

○CM・石瓦剛志

殿様姿の石瓦が、橋を見つめている。

家来「この橋、よござんじよ」

石瓦渡ろうとして、隙間を見つける。

家来「それはおしやれで」

石瓦「叩けー！ 叩けー！ 全員叩けー！」

石瓦「安全と分かるまで渡らんぞー！」

新倉N「リスクはくまなく叩く。太陽ビール

宣伝部長・石瓦剛志」

○撮影スタジオ・撮影セット前

唾然とする新倉。

屋内、新倉を心配げに見る。

雨宮「どうかしましたー？」

屋内「あの宣伝部長が……きちやいました」

○同・クライアント待機スペース

石瓦を招き入れる藤木と宮地。

藤木「急にどうして」

石瓦「今回企画段階でしっかり見てやれなか

ったろ。せめて撮影だけでもな」

藤木「……ありがとうございます」

新倉やってきて。

新倉「今日はよろしくお願いします。クリエ

イティブ担当してます、新倉と申します」

石瓦「宣伝部の石瓦です。社員一同今までにないCMができそうと盛り上がってました。

今日は楽しみにしています」

新倉「……こちらこそ」

石瓦「それでコンテは？」

宮地「はい！」

と絵コンテを差し出す。

新倉「おい！」と口パク。

石瓦「（読む）」

一同「……」

石瓦「（やめて）」

一同「……！」

石瓦、鞆をあさりだす。

石瓦、メガネをつけてまた読む。

軽くずっこける一同。

石瓦「これさ」

藤木・宮地「はい！」

石瓦「商品もたないの？」

藤木「え……」

藤木、新倉、顔を見合わせ。

新倉「えー、今回の企画の説明をしても？」

石瓦「お願いします」

新倉、ビアライトを机に置いて。

新倉「今回CMするビアライト。その一番の

魅力は、カロリーゼロの発泡酒ということ」

石瓦「ええ」

新倉「ただ、ゼロ系商品は競合も多いです」

石瓦「ええ」

新倉「なので、カロリーゼロをただ謳うので

はなく、カロリーゼロだから生まれる、消

費者の気持ちまで描くことで、他社よりも

魅力的なCMにするのが今回の狙いです」

石瓦「……ええ」

新倉「ではその気持ちをどう描くか。風です。

カロリーゼロだから気にせず飲める自由を、

風のビール缶で表現する。あえて商品を見

せないことでより商品の印象を際立たせる、

いま人気のCM手法になります」

石瓦「……ふん」

新倉「……」

石瓦「そうなの？」

藤木「は、はい。今の人にはそういうCMの

方がうけると、私も思いまして……」

石瓦「（藤木を見つめ）」

藤木「……」

石瓦「わかりました。よろしくお願いします」

新倉「ではこちらで撮影準備お願いします！」

一同「うえい！」

屋内、新倉と歩きながら、

屋内「さすがです」

新倉「今後が怖いです」

屋内「新倉さんなら大丈夫ですよ。続いてリン

カさんにもコンテ説明お願いします」

○同・撮影セット前

絵コンテを読むリンカ。

新倉「というCMになります」

リンカ「へー商品もたなくていいんだー」

新倉「！」

○同・クライアント待機スペース

石瓦「（ピク）」

藤木・宮地「……」

石瓦「本当に今人気の手法なのか？」

藤木「いや、その、えっと……」

新倉、バツと戻ってきて。

新倉「どうされましたー？」

石瓦「本当に商品もたなくていいんですか？」

さっきのが消費者のリアルな声なんじゃない

いですか？」

新倉「いえいえそんなことは。（宮地に）あの参考動画」

宮地「あ、はい」

宮地、YOUTUBEで検索・再生する。

と動画前の広告が流れてしまう。

○グミのCM

グミが画面いっぱいに浮いているCM。

女の子「ゲーミゲーミ、ゲーミミミ！」

新倉の声「ちよッ」

○同・クライアント待機スペース

石瓦「商品出てるじゃーん！」

新倉「いやこれは別のCMでして。流行りの

CMはちがって」

石瓦「広告業界の最新はいらないですよ」

新倉「そういうわけじゃ」

石瓦「やはり商品は最初から持たせましょう」

新倉「それじゃ企画の肝が」

石瓦「企画をやるためにCMするんじゃない。

商品売るためにするんです。本当に商品
を見せないことが、商品売ることになる
んですか？」

新倉「……！」

藤木、屋内、雨宮、一同の視線が、
新倉に集う。

藤木「……」

屋内「……」

雨宮「……」

新倉「……」

石瓦「……」

新倉「……出しましょう、商品」

雨宮「え！」

新倉「ただ途中からです！ まずは風でカタチを作ってから、飲む時にだんだん缶に変わっていく。これなら商品も見せられますし、演出も活かせます。いかがですか？」

石瓦「……まあ商品出るなら」

雨宮「……新倉さんがそれでいいなら」

新倉「……ッ」

雨宮、不満そうに撮影スペースに戻る。

新倉、頭をかきむしり、雨宮の元へ。

○同・撮影スペース

準備する雨宮。のもとに新倉来て。

雨宮「ギリギリまで商品出さないよ？ じゃ

ないと賞とれないよ？」

新倉「ギリギリ。ギリギリ攻めましょう！

賞とりましょう！」

雨宮「……（頷く）」

藤木、新倉に駆け寄って。

藤木「ほんとすみません……」

新倉「……こっからがんばりましょう！」

屋内「撮影開始しまーす！」

○CM・テイク1

竹林で、風にゆられるリンカ。

リンカが手で缶のカタチをつくり、

口に運んでゆく。

リンカ「（微笑）」

雨宮の声「はいカットー！」

○同・撮影スペース

リンカの周りにバツと人が集まる。

乱れた髪を直すヘアメイク。

扇子で扇ぐ庄司。

雨宮、送風機をいじり始めて。

雨宮「ちよつと風量調整しまーす」

屋内「調整入りまーす」

スタッフ「調整入りまーす」

スタッフ「調整入りまーす」

○同・クライアント待機スペース

宮地「調整入りまーす」

新倉「ちよつと風強すぎたんで調整しますが、
爽やかでいい感じですね」

藤木「(うんうん)」

石瓦「…」

新倉「商品は編集で、合成して入れますので」

石瓦「それは分かるんだが」

新倉「…だが？」

石瓦「これ、うまそうに見えるか？」

藤木「え」

新倉「風にあたって心地よさそうに飲んでる

姿は、すごく美味しそうに見えますけどね」

石瓦「風が心地いいだけに見えませんかね？」

新倉・藤木「(いやー…)」

石瓦「やっぱり飲んだらニコッじゃないか？」

新倉・藤木「(でたー…)」

新倉「それだとわざとらしくて、逆に美味し
そうに見えなくなると言いますか」

石瓦「逆も何も、今、美味しそうに見えない
んです」

新倉「……」

石瓦「飲んだらニコッ、でお願いします」

新倉「……」

○同・撮影スペース

宮地「飲んだらニコッでー」

スタッフ「飲んだらニコッでー」

スタッフ「飲んだらニコッでー」

屋内「飲んだらニコッでー」

雨宮「すみません。飲んだら」

リンカ「ニコッね。でも庄司さんいいの？

笑ったらまたかわいくなっちゃうけど」

庄司「それはダメ」

雨宮「笑顔NGで」

屋内「笑顔NGでー」

スタッフ「笑顔NGでー」

スタッフ「笑顔NGでー」

○同・クライアント待機スペース

宮地「笑顔NGでー」

石瓦「はあ？」

宮地「あ、や、僕がというわけではなく、僕

はむしろ笑顔オールOKなんですすがそのう」

石瓦「（新倉見て）」

新倉「……話してきます」

○同・撮影スペース

来る新倉に、庄司が詰め寄る。

庄司「言いましたよね。リンカはかわいい路線

線やめて、大人路線に変えていくって」

新倉「ええまあ」

庄司「なのに笑顔って、またかわいくなっち

やうじゃない！」

新倉「……」

リンカ「かわいって。いえーい！」

新倉「……」

庄司「わかったら早くクライアント説得して」

新倉「笑顔だったって、ニコッ！　じゃないで

すよ。ふふっ、くらいの大人ビューティー

な感じですよ。ほら、リンカさんの大人路線

見せる良いチャンスじゃないですか」

庄司「ふふっ、でいいのね？」

新倉「…：限りなく、ふふっ、な笑顔です」

庄司「ならいいけど」

屋内「（新倉に）さすがです」

新倉「（ため息）」

屋内「笑顔OKー！」

スタッフ「笑顔OKー！」

スタッフ「笑顔OKー！」

○同・クライアント待機スペース

宮地「笑顔OKー！　です」

石瓦「（笑顔）」

○CM・テイク2

竹林で、風にゆられるリンカ。

リンカが手で缶のカタチをつくり、
口に運ぶと、そっと口角をあげる。

リンカ「（ふふっ）」

雨宮の声「はいカットー！」

○同・撮影スペース

雨宮「いい！ どうすか？」

屋内「どうすかー？」

スタッフ「どうすかー？」

スタッフ「どうすかー？」

○同・クライアント待機スペース

宮地「どうす……いかがでしょうか？」

石瓦「……」

新倉「……問題なければ次のカットに」

石瓦「笑ってるかなあ？」

藤木「え」

石瓦「いや私はわかるよ。そりや笑うって流
れにさっきなったからね」

藤木「でしたら」

石瓦「ただ視聴者は初めて見るわけでしょ？」

これでわかるかな？ もっとうニツとさ」

と満面の笑みでピース。

新倉・藤木、……。。

石瓦「ニツ！ お願いします」

新倉「それはさすがに」

石瓦「お願いします」

新倉「……！」

○同・撮影スペース

リンカを囲む庄司・雨宮・屋内。

庄司「良かったよ。大人っぽかったリンカ」

リンカ「マジ？ 大人の階段のーぼるー♪」

新倉来て。

屋内「オツケーすかね！」

新倉「……すみません。笑顔なんです」

○同・クライアント待機スペース

せんべいを食べている石瓦。

庄司の声「ニコッピースのどこがオトナよ！」

石瓦「ん？」

宮地「あー部長！ も一枚食べませんか？」

石瓦「これ美味しいね」

○同・撮影スペース

庄司に必死に説得する新倉。

新倉「あえて、あえてのピース！ みたいな。

かわいいピースしてもなお醸し出してしまう

大人の雰囲気、ずーっと大人ぶってるよ

りむしろ、大人っぽい？ 的な」

庄司「あんたね」

リンカ「ありかもー」

庄司「え」

リンカ「いいよやってみる」

新倉「ありがとうございます！」

新倉、戻ろうとして。

雨宮「ニコパチ撮れってこと？」

新倉「……。すみません」

雨宮「別に撮れるけど、賞は獲れないよ」

新倉、……。戻っていく。

○CM・テイク3

竹林で、風にゆられるリンカ。

リンカが手で缶のカタチをつくり、

口に運ぶと、

リンカ「(ニコッ)」

とカメラにピース。

雨宮の声「……はいカットー……」

○同・クライアント待機スペース

頭を抱える新倉。うつむく藤木。

石瓦「うまそうになったな」

宮地「ではこちらで？」

石瓦「ただ、うまそうだけでいいのか藤木？」

藤木「……と言いますと？」

石瓦「ビアライトはカロリーゼロが一番ウリ

なんじゃないのか？」

新倉「なのでそれを、この風の気分で表現してまして」

石瓦「風でカロリーゼロが伝わるんですか？」

（藤木に）調査したのか？」

藤木「いえ、それは……」

石瓦「とにかくカロリーゼロを、しっかり伝えてほしいんです」

新倉「商品カットのところで、カロリーゼロのテロップは入りますので」

石瓦「テロップあっても読まなくないですか」
新倉「え」

石瓦「文字に頼らずどう表現するかでしょ？」
新倉・藤木M「（だから風をテーマに！）」

○同・撮影スペース

待たされてイライラしている庄司。
携帯をいじりはじめてる雨宮。

屋内「……もう少しです」

リンカ「おなかすいてきちゃったー」

屋内「とびっきりのお弁当用意してますんで」
リンカ「えー！ 楽しみー」

○同・クライアント待機スペース

パソコンをじっと見つめる石瓦。

冷や冷や見守る新倉たち。

屋内来て、新倉に耳打ち。

屋内「……どんな感じですか？」

新倉「……」

石瓦「うーん。やっぱり今までのビアライトのCMは全部カロリーゼロがメインだな」

パソコンに映っていたのは、油っぽい
コロツケを頬張りながらビアライトを
飲んでいるCM。

石瓦「カロリーゼロのぶん、たくさん食事を
気にせず楽しめるというメリットを、油っ
ぽい食べ物を使って描く。わかりやすい」

新倉「ただ今回は、今まで取れてなかった女
性も獲得していくのが狙いでして。女性を
とるには昔のは少し爽やかさに欠けるかと」

石瓦「二兎を追うものは一兎をも得ず。って
言いますよね」

新倉「いやそうですけど」

石瓦「もし新しいターゲットに目がくらんで、

一番大きいユーザー層を失ったら？ あな

たたちは責任とれるんですか？」

新倉・藤木「……」

石瓦「やはり気にせず食べれるを表現するか」

藤木「……（新倉見て）」

新倉「……」

石瓦「なにか油っぽい食べ物ありますか？」

宮地「あ、お弁当のカツサンドなら」

新倉、「ばかつ」と宮地をはたく。

石瓦「いいですね〜！ 油っぽい！」

とカツサンドを取り出す石瓦。

新倉「……」

石瓦「ね」

○同・撮影スペース

カツサンドをもって俯いている新倉。

庄司「ダメね。リンカは油ものは食べない」

リンカ「おいしそ〜」

庄司「食べない」

新倉「……」

庄司「てかあんた散々言ったよね？ 事務所

としてリンカは大人路線でいくの」

新倉「（うんうん）」

庄司「それに合った企画だったから受けたの」

新倉「（うんうん）」

庄司「違うならやる義理ないでしょ！」

新倉「ですよね！」

雨宮「新倉さん、あんた本当に賞獲る気」

新倉「カツサンドは阻止します。いま強い口

実もらえたんで」

雨宮「……（疑いの目）」

○同・クライアント待機スペース

新倉「ということですので、誠に残念ながら！

完全に事務所NGです」

石瓦「……（むう）」

藤木「急過ぎますし、変更は難しいですよ」

石瓦「ならどうやって『気にせず食べれる』

を表現するんだ？」

藤木「それは」

新倉「お言葉ですが、表現すべきは『カロリーゼロ』であって、『気にせず食べれる』ではないと思ひまして。カロリーゼロは、やはり元々の風の自由な世界観で」

石瓦「わからない人だなー」

新倉「！」

石瓦「それじゃ伝わらないんですよ」

新倉「くくくく！」

石瓦「うちはあの子に何千万も払ってんです。それくらいのがまま、やめてもらえないんですかね」

新倉「……わがままって、どっちが……」

石瓦「ん？」

新倉「……。わかりました」

藤木「……」

石瓦「（頷く）」

新倉「……ただ事務所にも方針があるので、食べるのは難しいと思ひます。なので」

○同・撮影スペース

庄司たちに説明する新倉。

新倉「食べなくていいので、せめて手に持つてもらえませんか？」

庄司「なにその屁理屈。そんなの食べてると一緒にじゃない！」

雨宮「（冷たい目）」

新倉「……。そこをどうか、お願いします」
頭を下げる。

庄司「無理よ。無理」

頭を下げ続ける新倉。

リンカ「……」

新倉「……」

リンカ「いいんじゃない？ 持つくらい」

新倉「！」

庄司「何言ってるの。これから大人で売ってくのに何が嬉しくてカツサンドなんて」

リンカ「リンカ大人だから、こういうトラブルにも大人の対応してあげるの」

新倉「……」

リンカ「いいよっ。持つ持つ！」

新倉「……ありがとうございます」

雨宮「賞よりカツサンドをとったね」

新倉「……」

○CM・テイク4

竹林で、風にゆられるリンカ。

リンカが手で缶のカタチをつくり、

ニツと笑い、

カツサンドを掲げて、ピース。

雨宮の声「……はいカットー」

○同・クライアント待機スペース

モニターを見る石瓦と新倉たち。

新倉「……やっぱりカツサンドはやめた方が」

石瓦「たしかに……うまそうに見えない」

新倉「ですよね！　じゃカツサンドはなしで」

石瓦「はい？」

新倉「……はい？」

石瓦「そしたら『気にせず食べれる』はどう

表現するんですか」

新倉「ですからそれは」

石瓦「もっとカツサンドを美味しそうに見せてください」

藤木「これはビアライトのCMで」

石瓦「カツサンドがまずそうだと、ビアライトまでまずそうに見えるんだ」

藤木「……」

石瓦「あの子が食べないなら、食べる以外で

『美味しさ』を表現してください」

頭を抱える新倉。

申し訳なさそうに藤木が見る。

石瓦「思いつかないなら食べさせてください」

新倉「ッ！……策なら……あります」

○CM・テイク5

竹林で、風にゆられるリンカ。

リンカが手で缶のカタチをつくり、

口に運んでいく。

と、鍋でカツがジュージュー揚がる。

リンカ「（ニッ）」

と、カツサンドを掲げて、ピース。

兩宮「カット！ あーいいカツサンドのCM」

○同・撮影スペース

リンカに駆け寄る庄司とスタッフたち。

扇子であおがれるリンカ。貧乏ゆすり

しはじめている。

庄司「私言ったげる」

リンカ、庄司の腕を掴んで。

リンカ「……大人の階段のーぼるー♪」

庄司「……」

○同・クライアメント待機スペース

「何やってんだろ」と頭抱える新倉。

石瓦「うん。うまそうになった！」

新倉「……まじか」

宮地「ではこちらで」

石瓦「ただ」

一同「……」

石瓦「このCMはシニアに共感されるのか？」

新倉「……はい？」

藤木「あ……その、うちの会社、今年から全社方針としてシニア獲得を掲げてまして」

新倉「いやいやビアライトはシニア向けじゃ」

石瓦「カロリーゼロはシニアも嬉しいでしょ」

新倉「そうかもしれませんが……」

藤木「部長。さすがに今そこに立ち返るのは」

石瓦「でも全社方針だよ」

藤木「……」

石瓦「まーでもたしかに急ですからね。ちょっとでいいんです。ちょっとで」

新倉「ちよっとって言われましても……」

石瓦「浮かびませんか？ アイデア」

新倉「……ッ！」

石瓦「私には、アイデアがあります」

○CM・テイク6

竹林で、風にゆられるリンカ。

リンカが手で缶のカタチをつくり、
口に運んでいく。

と、背後に、風に吹かれている老夫婦。

老夫婦「（微笑）」

ジュージュー揚がるカツ。

リンカ、笑顔で、カツサンド掲げると、

老夫婦、カツサンドにかぶりつく。

雨宮「カットー！ カットー！ 全カットー

したい……」

○同・撮影スペース

ここにこリンカに会釈する老夫婦。

リンカ「（ムッ）」

庄司「ちよつと。オトナの階段」

リンカ「あ？」

庄司「……！」

○同・クライアント待機スペース

机に突っ伏している新倉と藤木。

石瓦「悪くない。悪くないんだが、ビアライ

トの印象が薄いな」

新倉・藤木「……でしようね」

石瓦「昔のCM見せて」

宮地「はい！（PC差し出す）」

新倉「おい……」

石瓦、過去のビアライトCM見て。

石瓦「あーこれだこれ。これが足りない」

PC画面には、ビール缶が氷水にドブ
漬けにされているカット。

石瓦「このドブ漬けカットが足りないんだよ。

アツアツのカツと、ヒエヒエのビアライト、

この対比！ どう思う？」

新倉・藤木「……」

宮地「良いと思います！」

新倉・藤木、宮地を睨む。

石瓦「ではお願いできます？」

新倉「……」

屋内「新倉さんッ」

新倉、声の方を振り返ると、

撮影スペースにいる屋内。その後ろに、

怒りの目をした庄司。冷めた目の雨宮。

新倉「……」

○同・撮影スペース

新倉が来るなり、詰め寄る庄司。

庄司「ジジババと共演させるなら、もう撮影

続けないからッ！」

新倉「そんな、待ってください！」

庄司「待ったでしょ！ もうたくさん待った。

我慢した。無茶聞いた。でもまだ聞けって、

なめてんの！？」

新倉「いや……その」

氷水を運んでくる宮地。

屋内「あれは？」

新倉「……クライアントが、また」

溜息をつく雨宮。

雨宮「（固い笑顔で）まあ僕は、新倉さんの

やりたいように撮るよー」

新倉「……」

宮地の氷水に戸惑うスタッフたち。

屋内「……新倉さん。クライアントさんほも

ちろん大事ですけど、絶対でもないと思っ

ます。これだけたくさんの人をお願いして、一緒に作っているわけですから」

庄司「そうよ。さっきあっちで高い金払ってるとか聞こえたけどね。金払ったら何やらせてもいいわけじゃないんだからね？ 奴隷じゃないんだからね？」

雨宮「クライアントの為にいいもの作るのが、クリエイティブディレクター。クライアントのわがまま聞くだけなら、そんな肩書じゃないでしょ」

新倉「……」

○同・クライアント待機スペース

戻ってくる新倉。

石瓦「ヒエヒエ準備万端ですか？」

新倉「……」

新倉、企画コンテを机にだす。

石瓦「……」

新倉「もう一度企画を説明させてください」

石瓦「……」

藤木「……！」

新倉「ビアライトの魅力はなんといっても、
カロリーゼロの発泡酒ということ。ただ、
いまやゼロ系商品は競合も多いので、今回
はカロリーゼロをただ謳うのではなく、そ
の先の情緒価値である自由を描くべきです。
その自由はいわば、風になったかのよう。
そこで、風がビアライトになるこの企画に」
石瓦、手で制する。

石瓦「ではあなたは、その企画で売上を上げ
られると責任もてるんですね？」

新倉「……！」

石瓦「私は素人ですから分かりませんが、ビ
アライトの将来を握る者として、気になる
ところ全てを言ったつもりです。それを全
てやらなくても、掌で風を作ればビアライ
トは必ず売れる。そういうことですね？」

新倉「……！」

石瓦「藤木、お前は責任もてるのか？」

藤木「……私は……！」

石瓦「……」

藤木「……すみません」

新倉「……」

石瓦「ヒエヒエ準備お待ちしてます」

○同・撮影スペース

新倉が来る。氷水の入った樽を持って。

新倉「……」

溜息をつく雨宮。

肩を落とす屋内。

ありえないと首を振る庄司。

リンカ「もうやだ！」

ずかずかと控室に向かうリンカ。

新倉「ちよっと！」

リンカ「なにこのCM！なにがおしゃれ？

私こんなの出たくないッ！」

新倉を押しつけるリンカ。

その勢いで、氷水の樽が吹っ飛ぶ。

新倉「（あ）」

宙を舞う氷樽。

リンカ「！」

屋内「！」

庄司「！」

雨宮「！」

ドパーン！とカメラに突撃した。

一同「！！！」

氷水にドブ漬けになっているカメラ。

一同「……………」

新倉「……………」

雨宮「はい撮影終了ー！」

帰っていく雨宮。

新倉「ちよつと監督！」

雨宮「あんただれ？」

新倉「……………」

屋内「あーもういったん休憩とりましょう！

お食事！ お食事休憩入ります！」

バラバラと散っていく一同。

新倉の頬を伝う、氷水。

ポタポタと床に落ちていく。

……………。

○撮影スタジオ・外観（夜）

○同・撮影スペース

スタッフらが床で弁当を食べている。

……。

雨宮、2個目を食りはじめる。

○同・タレント控室

弁当を食べるリンカ。貧乏ゆすり。

庄司「……（撮影現場を覗む）」

○同・クライアント待機スペース

黙々と弁当を食べる石瓦。

宮地「お茶はー？」

黙って紙コップを突き出す石瓦。

○同・搬入口（夜）

の段差に座ってうなだれる新倉。

ビアライトが差し出される。

新倉「！？」

藤木だ。

新倉「ありがとうございます。でも仕事中は」

藤木、ゴクゴクとビアライトを飲む。

新倉「……」

藤木、一気に飲みきって。

藤木「あーッ」

新倉「……」

新倉、ビアライトを飲むようにして。

藤木「いつもこうなんです」

新倉「？」

藤木「最後の最後で、うまくできない。言い

たいことあっても、ビビって、言えなくて。

結局いつも……すみません」

新倉「藤木さんのせいじゃ」

藤木「僕がさつき売れるって言い切れれば」

新倉「それは……私こそ、です」

藤木「……」

新倉「……」

藤木「……なんにもできないや」

藤木、ビアライトのカロリーゼロ見て。

藤木「ゼロですよ。それこそゼロ」

力なく笑う藤木。

新倉「だから私の方が、です」

新倉、ビアライトをぐいっと飲む。

藤木「……」

新倉、一気に飲みきって。

新倉「……うまい。ゼロのくせに」

藤木「ほんと。鼻屑とかじゃなくて、おいし

いと思います。ビアライト。特にこういう、

もうやだーって思ったときは特にうまい」

新倉「……」

新倉、ビアライトを見つめて。

藤木「新倉さん？」

新倉「……なんも見れてなかった」

藤木「え」

新倉「ひとつの見方しかできない奴に、良い

広告は作れない……」

藤木「はい？」

新倉「ひとつもなにも、全く見れてなかった」

ビアライトを見つめる新倉。

藤木、ビアライト見て、！

立ち上がる新倉。

新倉「藤木さん。ビアライトのCM撮りましよう」

○同・撮影スペース

スマホをいじる雨宮。

新倉がやってくる。

雨宮「……」

新倉、頭を下げる。

新倉「もう一度だけ、チャンスをください」

雨宮「……カツサンドのCMですかー？」

新倉「ビアライトのCMです」

雨宮「なら今度こそコンテ通りにやるのね」

新倉「いや。クライアントの要望は叶えます」

雨宮、溜息。

新倉「その上で、それを超えるものを私たちが提案しましょう」

雨宮「……」

新倉「それでもダメならその時は……私たちの負けです」

雨宮「超えるものって？」

新倉「アイデアがあります」

ひそひそと説明を始める新倉。

と屋内が走ってきて。

屋内「すみません。カメラが直らず……」

新倉「替えもないんですか？」

屋内「今からじゃ間に合いません……」

新倉「そんな……」

雨宮「じゃあもう無理だ」

とスマホをいじりだす。

新倉「……（雨宮見て）」

雨宮「……なによ」

新倉「……それだ」

雨宮「え」

新倉「それだ！」

と雨宮のスマホを取る。

新倉「スマホ！ スマホで撮りましょう！」

屋内「記念撮影じゃないんですから」

新倉「シン・ゴジラ！ あんな大作のなかに
いくつか監督がスマホで撮ったシーンが使
われてるって知ってますか？」

雨宮「……」

新倉「何より、商品さえそこになれば、CM
は作れるはずですよ！」

とビアライトを掲げる。

雨宮、新倉を見つめて、微笑み。

雨宮「たしかに。スマホで撮るCMか……賞
とれるかもね！ やるよ」

新倉「ありがとうございます！」

○同・クライアント待機スペースまでの道

新倉と歩く藤木。

藤木「でもそれで、石瓦はどうするんです？
リンカさんもさっきのままじゃ、やってく
れないでしょうし……どうするんです？」

新倉「……どちらの意見も聞きましょう」

藤木「そんな無茶な」

新倉「ひとつの見方しかできない奴に、良い

広告は作れない。これ、商品のことはもちろんのこと、人も同じだと思ったんです」

藤木「え」

新倉「みんな、嫌がらせしたくて色々言ってるわけじゃなくて、それぞれに大事な事情があつて、それで言ってる」

藤木「……」

新倉「さっきまでは、こっち側からしか聞けませんでしたが、あっち側で話を聞ければなにか変わる気がして」

藤木「……新倉さん」

新倉「ま、もう失うもんゼロなんで。やるだけやってみましょう！」

藤木「はい！」

○同・クライアント待機スペース

爪楊枝で口内掃除をする石瓦。

新倉・藤木が来て。

石瓦、お茶を一口飲み。

石瓦「もしこのまま撮影できなかつたら、そ

のときは」

新倉「私が責任とります」

藤木「……！」

石瓦「……では、どうするんです？」

新倉「まず今回のCMで外せないポイントを整理させてください」

椅子に座る新倉と藤木。

石瓦「そりゃあ、カロリーゼロとおいしさの訴求でしょう。それとシニアの獲得。全社方針ですから」

新倉「……」

○CM・石瓦 第2弾

石瓦がトイレしている。

と右に開発部長。

開発部長「カロリーをゼロにした我々の努力、知ってるよね？」

石瓦「開発部長！」

左に社長。

社長「時代はシニアだ。わかってるね？」

石瓦「社長！」

後ろから藤木。

藤木「風がテーマのおしゃれなCMを」

石瓦「あーもう！ どうすんのオレ！？」

新倉N「社内のプレッシャー半端ない！

新・石瓦剛志」

○同・クライアント待機スペース

新倉「……」

石瓦「この3点は絶対外せないな」

藤木「ただ部長、やっぱり今回シニアは……」

新倉「わかりました。カロリーゼロとおいし

さとシニアですね」

藤木「ちよつとそんな。15秒ですよ？」

新倉「なんとか叶えます。だからその手段は、

我々スタッフに任せていただだけませんか？」

石瓦「……」

藤木「……」

石瓦「……叶えられるなら。お願いします」

新倉・藤木「……ありがとうございます！」

○同・タレント控室

荷支度をすませた庄司とリンカ。

出ていこうとして。

新倉「今出てったら！ それこそ大人らしい
評判なんてとれませんよ」

リンカ「……」

庄司「あなた何様のつもり？」

新倉「このまま終わったら誰も幸せになれない。全員が納得できる答え見つけますから」
リンカ「ならあんな老人と共演させないで！」
新倉「……」

○CM・リンカ 第2弾

白い抽象空間で、リンカに関する記事
やSNS投稿に囲まれるリンカ。

NA「25！」

リンカ「かわいいだけでは生き残れない！」
記事やSNSの投稿が減っていく。

NA「25！」

リンカ「売れるか、消えるかの分かれ目！」

さらに記事・SNSが消えていき、

その先には今日の撮影所。

NA「25！」

リンカ「このCMが、ひとつの分かれ道！」

新倉N「絶対に負けられない、撮影がある。

新・リンカ」

○同・タレント控室

新倉「……絶対にあなたを魅力的に映します」

リンカ「……！」

新倉「あなたにとって、転機になるような作

品にしますから。どうかお願いします！」

新倉、頭を下げる。

リンカ「……」

庄司「いくよ」

とリンカの腕を引くも、動かない。

庄司「！」

新倉「……」

リンカ、新倉の顔を起こして。

リンカ「……あと一回。それだけだから」

新倉「！！（頷く）」

○同・撮影スペース

集う新倉、藤木、屋内、雨宮、リンカ。

屋内「……つまり今回指すのは」

新倉「カロリーゼロとおいしさが表現できて」

藤木「シニアの共感もとれて」

リンカ「大人っぽい感じで」

雨宮「スマホで撮れて、賞もとれちゃう」

屋内「CM……」

新倉、頷く。

一同「……」

屋内「やっぱり全部は無理じゃないですか」

新倉「……」

藤木「あーもうどうしたらッ！」

と髪を掻きむしってビアライトを飲む。

雨宮「そんな飲んだら将来ビール腹になっち

やいますよー（と自分の腹をさする）」

藤木「カロリーゼロなんで。太りません」

新倉「！ それだ！」

藤木「え」

屋内「なにか思いついたんですか？」

新倉「カロリーゼロだから、『いま気にせず食べれる』と描くんじゃなくて。カロリーゼロだから、『未来も理想の体型でいられる』と描くんです」

藤木「未来？」

新倉「たとえば、今のリンカさんが、未来のリンカさんと乾杯する企画にするんです。未来のリンカさんは今より大人っぽくなってるけど、スタイルは良いままで理想的！」

屋内「……なるほど」

新倉「これならリンカさんの大人路線は出せるし。今のリンカさんのおいしそうな表情でおいしさ。未来のリンカさんのスタイルの良さでカロリーゼロも表現できます！」

藤木「たしかに！ でもシニアは？」

新倉「リンカさんがシニアが嫌だったのは、ださかったからですよ。でも今回のコンセ

プトは、カロリーゼロを飲んでたら将来も魅力的でいられると表現すること。だからシニアもおしゃれに変わるようにする！
これならどうでしょう？」

リンカ「……まあおしゃれなら……いいよ」

新倉・藤木「（笑顔）」

屋内「あとは部長さんに」

石瓦「いいんじゃないですか」

一同「！」

そばまで来ていた石瓦と宮地。

石瓦「それなら要件は満たしている」

藤木「ありがとうございますッ！」

石瓦「ただ」

藤木「……（え）」

石瓦「これで売れると、お前は責任もてるんだな？」

藤木「……」

新倉、フォローしようとして。

藤木、手で制する。

新倉「！」

藤木「……正直売れるかはわかりません」

石瓦「……」

藤木「ですが今、この場で、このメンバーで、できる最善策だと思います。何より新倉さんは、私の知る限りで一番ビアライトを考えているクリエイティブディレクターです」

新倉「！」

石瓦「だから？」

藤木「……私はこのCMに責任を持ちます」

石瓦「……」

石瓦、藤木に詰め寄って。

藤木の肩に手を置く。

石瓦「責任はな、上司が持つんだよ」

藤木「……」

石瓦「よく言った。お前に賭ける」

藤木「！」

宮地「では……！」

石瓦「こちらで、よろしく願いします」

頭を深々と下げる石瓦。

新倉・藤木「（笑顔）」

屋内「では。撮影再開します！」

○CM・テイク7

竹林。風に吹かれるリンカ。

ビアライトを飲んで。

リンカ「おいしい」

とうつとり笑顔。

すると急にキリッとして。

リンカ「だけじゃない」

カメラくるっと反転すると、

大人なパーティーードレス姿のリンカ。

背後にはドレスアップした老夫婦。

リンカ「カロリーゼロで、明日の私に乾杯」

今と昔のリンカ、乾杯する。

雨宮「カット！」

○同・撮影スペース

モニターで見っていた一同。

「おおー」とご満悦な様子。

宮地「……ではこちらで？」

石瓦「……」

新倉「（石瓦見て）」

藤木「（石瓦見て）」

石瓦「いいんじゃないか」

新倉・藤木「！」

宮地「完パケです！」

スタッフ「完パケです！」

スタッフ「完パケです！」

拍手を交わし合う一同。

と、藤木がビアライトを持ってくる。

一同「？」

藤木「最後にみなさんと乾杯しませんか？」

○同・外観（夜）

「カンパニー」と一同の声。

○同・中

ビアライトを飲んで語り合う一同。

石瓦「いやーリンカさん、よかったです」

庄司「よく言いますわ」

リンカ「ぷはー！ 仕事終わりって、うまッ
シニア「もう一杯いきます？」

リンカ「いきますいきまーす！」

などと笑い合ってる一同。

雨宮「はいカットー！」

一同「…：…え」

物陰から屋内が出てくる。

屋内は、スマホで一同を撮影していた。

石瓦「これはいったい？」

新倉「ひとつご提案なんです、こんなCM

はいかがですか？」

石瓦「？」

○CM・オリジナル

撮影直前の、真剣な表情のリンカ。

モニターを一心に見つめる石瓦や庄司。

撮影後、ビアライトを飲む一同。

すっきりとした気持ちのいい笑顔たち。

リンカ「（笑顔）」

石瓦「（笑顔）」

シニア「（笑顔）」

リンカ「（飲んで）うまッ」

新倉N「さあ、ゼロになるう。カロリーゼロ
ビアライト」

○同・撮影スペース

モニターを見つめる一同。

新倉「休憩の時、藤木さんとビアライト飲んで
思ったんです。リセットされるなって」

石瓦「……」

新倉「それはおいしいからかもですし、ゼロ
だから気兼ねないからかもですけど、とに
かくその時、今までで一番この商品良いつ
て思っ。それで、その瞬間をCMにでき
ないかなって思ったんです」

石瓦「……」

石瓦、ビアライトを見つめて、……。

新倉「条件をすべて満たせているかと言った
らさっきの方だと思います。ただ……」

石瓦「ただ？」

新倉「ビアライトのクリエイティブディレクターとしてはこのCMをオススメします」

雨宮、微笑み、ビアライトを飲む。

石瓦「……」

リンカ「私こっちわりと好きかもー」

庄司「たしかに自然な方が、大人っぽいかも」

石瓦「……」

新倉「（石瓦見て）……」

石瓦「つまりあなたは私たちを利用したと？」

新倉「えっ……まあ、はい……」

石瓦「なんて人だ」

新倉「……」

石瓦「藤木の言う通りだな」

藤木「え」

石瓦「……ビアライトのことを一番に考えた、

良いCMだと思います」

新倉「！！」

宮地「……では、こちらで？！」

石瓦「よろしくお願いします」

宮地「……！ 完パケです今度こそ！！」

スタッフ「完パケです今度こそ！」

スタッフ「完パケです今度こそ！」

石瓦「（笑って）」

新倉「（笑み）」

藤木「（笑み）」

新倉、藤木、互いを見合って。

乾杯した。

○新倉のマンション・リビング

妻とビアライトを飲む新倉。

新倉「賞は難しいけど、クライアントの評判

が良くてさ。異動なくなりそうなんだよね」

妻「よかったねー（スマホいじる）」

新倉「ほんといいCMなんだよ？」

とテレビを見ると、ビアライトのCM。

新倉「これ！これ！ほら！」

妻「まってメール返すから。よし。どれ？」

新倉「…もう終わっちゃったよ」

妻「短ッ」

おしまい